

開催地名	北海道 苫小牧市
開催日時	令和6年11月17日(日)13:00~14:30
開催場所	苫小牧市役所9階会議室
語り部	井上 剛(宮城県山元町)
参加者	31名
開催経緯	苫小牧市では、令和3年7月に新たな浸水想定が公表され、甚大な被害が予想されるが、過去に大規模で広域的な津波被害の経験がないことから、東日本大震災を経験した語り部を介して、大震災の教訓を風化させることなく苫小牧市民全般に伝承することで地域防災力の向上につなげてつなげることをねらいとして講座を開催している。
内容	<p>■東日本大震災の経験と語り部活動</p> <p>井上氏は東日本大震災の経験をもとに、被災体験を語り部として伝える活動を行っている。震災当時は中浜小学校の校長を務めており、その後も自身の経験を多くの人々に共有し、災害への備えの重要性を訴えてきた。中浜小学校は震災当時、小規模な学校であったが、適切な避難対応によって全員が無事に避難し、命を守ることができた。この事例を通じて、学校における防災対策の重要性や、日頃の準備の大切さが語られた。</p> <p>また、山元町全体も震災後の復興に向けて努力を続けており、災害の記憶を風化させないための取り組みが行われている。学校の特徴的なデザインや避難の様子についても詳しく説明され、実際の避難行動が命を守る鍵となったことが強調された。</p> <p>■地震と自然災害の経験と教訓</p> <p>講演では、地震の予測が難しく、いつどこで発生するかわからないことが指摘された。特に、東日本大震災の余震は10年以上経っても続く可能性があり、全国的に地震のリスクが十分に認識されていない現状が課題であると述べられた。また、現在の日本列島が地震が発生しやすい時期に差し掛かっている可能性があることにも言及され、全国的な防災対策の強化が求められる。</p> <p>防災の観点から、地域社会や学校での避難訓練の重要性が強調された。特に、訓練が形骸化しないようにするためには、訓練後の振り返りや反省会が不可欠であると述べられた。さらに、宮城県では過去の災害から学び、建物の耐震補強やブロック塀の改修が進められていたことが紹介された。こうした具体的な改修などの取り組みを継続し、災害発生時に迅速かつ確かな行動ができる体制を整えることが重要である。</p> <p>■中浜小学校の津波体験</p> <p>2011年3月11日の東日本大震災では、中浜小学校が10メートルの津波に直撃された。学校の立地上、津波の被害が懸念されていたが、事前の防災対策が功を奏し、児童や教職員は迅速に避難を開始することができた。</p> <p>避難の際には、防災頭巾をかぶることの重要性も再認識された。災害時には頭部を保護することが重要であり、防災頭巾の着用は生命を守る一助となる。講演では、普段から防災頭巾の活用を習慣化することが推奨された。</p> <p>また、災害時にはその場にいる人々の協力が不可欠である。中浜小学校では、地域住民が学校の方針に理解を示して児童と教職員が一丸となって避難行動をとり、安全な場所へ移動することができた。この事例を通じて、日常的な防災意識の向上と、地域との良好な関係を保つ努力を通して、いざというときの適切な対応の重要性が改めて示された。</p> <p>■避難所運営と地域の協力</p> <p>講演では、避難所の運営には地域の協力が不可欠であることが強調された。避難所では食料や物資の管理、衛生環境の維持など、さまざまな課題が発生する。そのため、地域住民が協力して役割を分担し、円滑に運営することが重要であると述べられた。</p> <p>特に、子どもたちの積極的な参加が避難所の運営を円滑にすることが指摘された。震災時には、大人だけでなく、子どもたちも自分にできることを考え、率先して行動していた。子どもたちが物資の整理や清掃を手伝うことで、大人が動き出し、避難所全体の環境が向上し、地域の結束力が高まることが期待される。</p>

また、避難者は単に支援を受けるだけでなく、避難所運営に積極的に関与することが求められる。避難所では、互いに助け合いながら生活することが重要であり、運営する人も被災者であることを、平時から理解してもらうことで全員が協力して運営を支える意識を持つことが必要である。

■防災の未来と日常的な備え

講演では、防災訓練の見直しが必要であり、全世代が参加できる訓練を目指す必要がある。特に若い世代を巻き込むことが重要であると述べられた。若い世代が積極的に防災に関与することで、地域全体の防災力が向上し、次世代への意識の継承にもつながる。工夫する余地は大きい。

また、災害に備えるためには、日常的な習慣が重要である。例えば、家庭内での防災対策においては家具の固定は必須であり、具体的な方法が示された。また、非常食や防災グッズを準備すること、避難経路を家族で確認することなど、日頃からできる備えを進めることが推奨された。

最後に、講演では「防災は特別なことではなく、日常の一部として考えることが重要である」と強調された。防災を日常生活の中に取り入れ、誰もが迅速かつ適切な行動をとれるようにすることが、命を守るための鍵であると締めくくられた。



開催地より

苫小牧市の自主防災力の向上をめざし、地域ごとの防災訓練がさらに活発に行われるよう、普及啓発に努めたい。